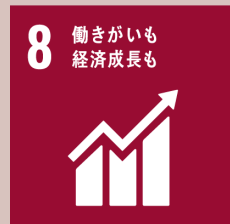


一本の木から、 文化を読み、つなぐ

河渕 智子

北海道大学 大学院文学院
文化人類学研究室



未来社会のあるべきかたち

- ◆ 人・自然・地域の関係を育む社会
- ◆ 文化を媒介に人と人が対話し、知を未来へ繋ぐ
- ◆ 見えないつながりを想像できる人びとを育む

現代社会における課題

- ・ 大量生産・大量消費による消費行動の高速化
- ・ 人と自然との関係が見えにくくなっている
- ・ 森が暮らしから遠い存在になっている
- ・ 目先の効率や経済性が優先され、長い時間軸で考える機会が減っている

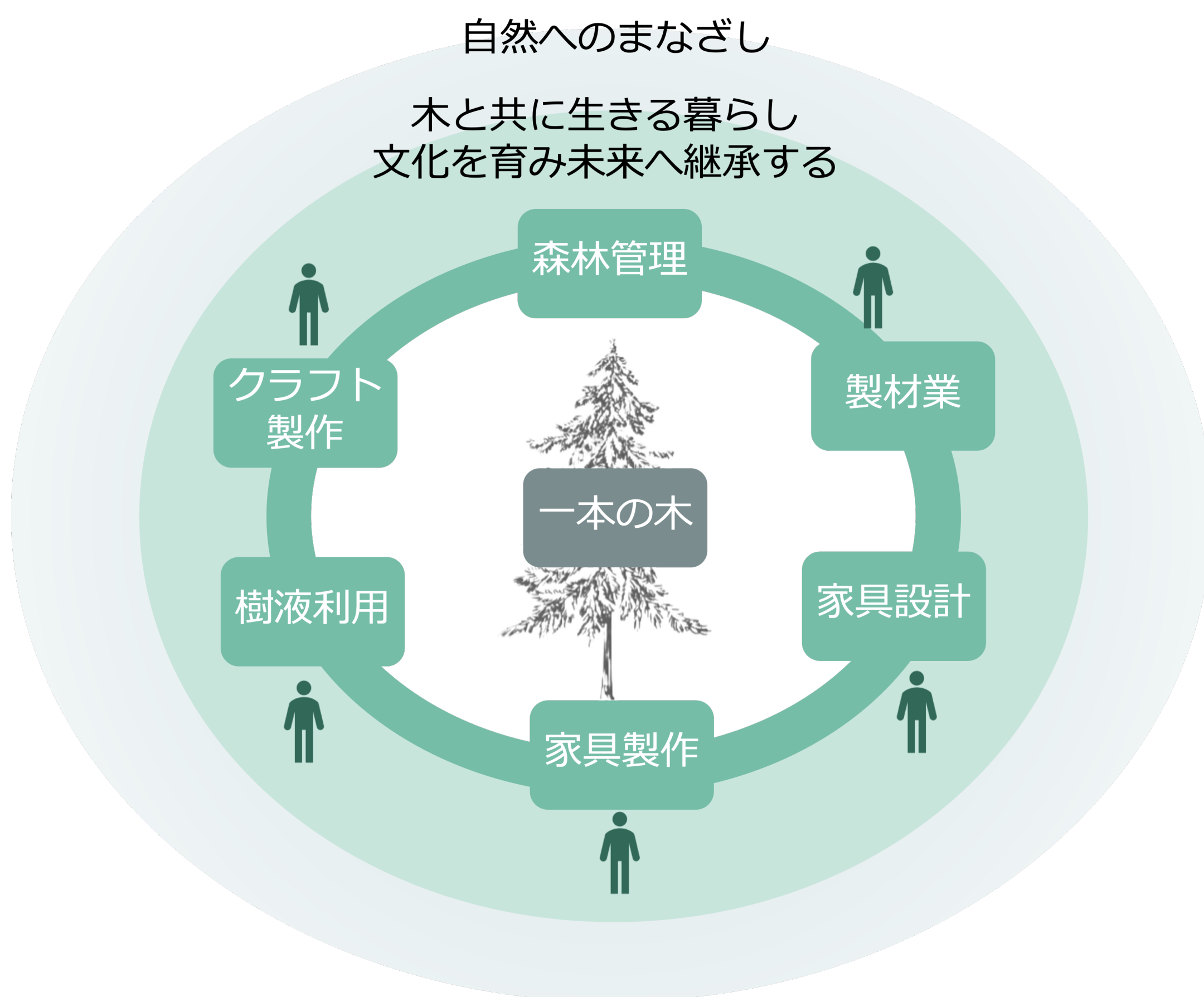
文化とは、人と自然、人と人との関係を育む実践を通して、見えないつながりを可視化する営みである。

研究概要

ティム・インゴルドの dwelling という環境に根差した地域の営み、「暮らす」の視点から、北海道の木材を用いて製作される旭川家具を対象に、人・自然・地域の関係が実践のなかでどのように育まれているのかを文化人類学の視点から明らかにする。

なぜ旭川家具なのか

- ・ 森林から家具までが一つの地域でつながる
- ・ 歴史的に外部文化を意欲的に取り入れた多様な職人・企業が協働している
- ・ 人と自然の関係を観察できるフィールドである



本研究の社会的意義

家具を媒介として、人・自然・地域との見えないつながりを知り、遠い他者への想像力を育む